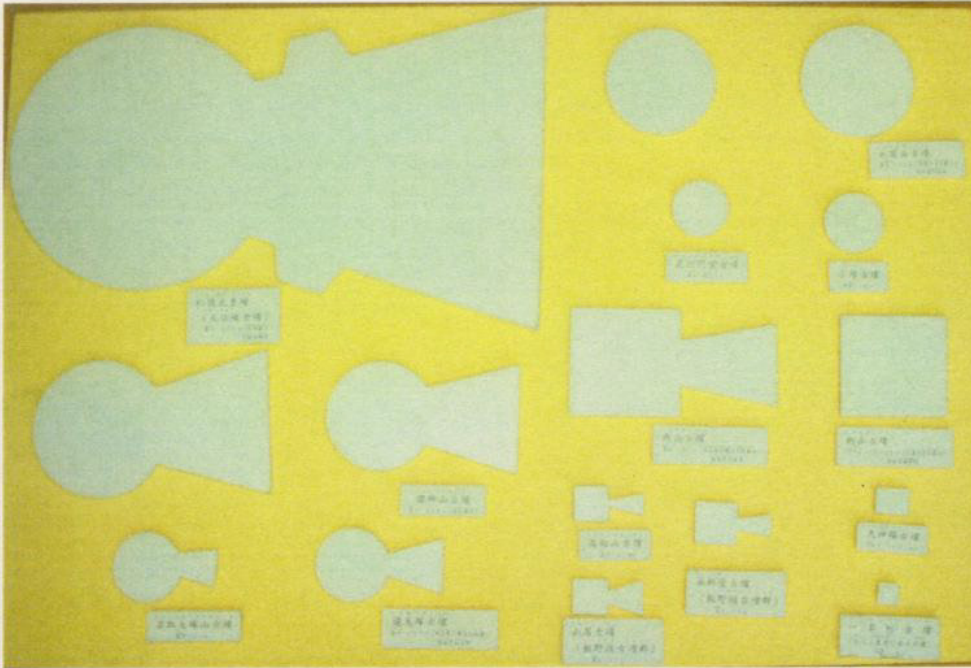


さまざまな古墳の形と大きさ

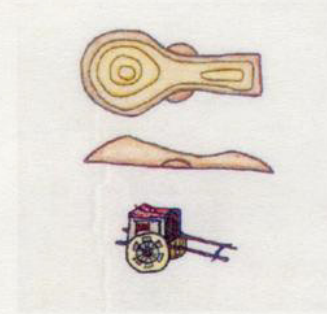
I-9-②



I-9-②

前方後円墳の呼び名の由来

I-10



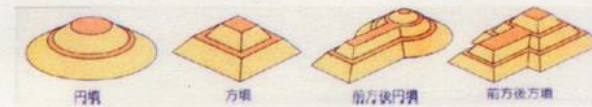
I-10

前方後円墳（ぜんぽうこうえんぼん）という名を付けたのは、江戸時代の学者蒲生君平（がもうくんぺい）です。古墳を横から見た形が、牛車（ぎっしゃ）という平安時代の乗り物の形に似ていることから、人の乗るところが後ろ、車をひく棒（ぼう）に当たるところが前であるとして前方後円墳と名付けられました。

I-10

前方後円墳と 前方後方墳の形の意味

I-11



I-11

前方後円墳は円墳を、前方後方墳は方墳をそれぞれ元（もと）としており、どちらにも取り付く前方部（ぜんぽうぶ）は、後円部（こうえんぶ）や後方部（こうほうぶ）に通（つう）じる道（みち）という意味合いがあると考えられています。

I-11